

## 第6学年 国語科学習指導案

1 単元名 優れた表現の効果を考えて物語を読もう

2 学習材 「川とノリオ」 (教育出版) 教科書教材

3 単元について

本単元は優れた表現の効果を基に、登場人物の心情や主題をとらえて読むことをねらいとしている。

児童は5年生の「大造じいさんとがん」や6年生の「あの坂をのぼれば」で、情景描写や登場人物の行動をから登場人物の心情をとらえる学習をしてきた。これまでの学習を通して、児童は、情景描写などの表現から登場人物の心情を考えることができるようになってきたが、心情が読み取れる表現を見逃してしまうこともある。「川とノリオ」は、登場人物の心情の直接的な描写がほとんどない物語である。そのため、登場人物の心情を読み取るには、繰り返し、比喩、色、体言止めなどの表現に着目し、その効果を理解することが必要である。そこで、文章中の大事な表現に着目し、お互いの感じ方に触れ合うことで間接的な表現からも心情を想像する力を高めていきたい。

本単元を貫く言語活動として、各場面の学習の振り返りに「短歌と解説文」を書くことを位置付けた。物語に散りばめられた文学的表現を使って、登場人物の様子や心情を短歌にし、解説文をつける。「何が書かれているか」という内容面だけでなく、「どのように描かれているか」という表現面に目を向け、心を動かす優れた叙述、暗示性の高い表現、メッセージや題材を強く意識させる表現などに着目しながら読むことで、作品の全体像を具体的にイメージできるようにしていく。そして、短歌と解説文を通して友達と交流することで、様々なものの見方や感じ方に気づき、自分の考えを広げていけるようにしたい。

4 指導計画 (11時間扱い)

◆指導事項 5, 6年「読むこと」

エ 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。

◆言語活動 優れた表現を生かして短歌を作る。

次	時	主な学習活動と内容	
1	1	◎学習の見直しをもつ。 ①物語の様々な表現に着目して場面の様子や登場人物の心情を想像し、各場面で短歌と解説文にまとめ、互いの見方や感じ方を紹介するという単元のゴールをとらえる。	並行読書
	2	②全文を通読し、作品の全体をつかむ。	
	3	③学校図書館司書より戦争に関するブックトークを聞き、感想を書く。	

2	<p>4</p> <p>5</p> <p>6</p> <p>7</p> <p>8</p> <p>9</p> <p>【本時6-2】</p> <p>10</p> <p>【本時6-1】</p>	<p>◎優れた表現の効果をもとに、登場人物の心情を把握する。</p> <p>④始めと「早春」の場面の優れた表現から登場人物の心情を読み取る。</p> <p>⑤「また早春」の場面の優れた表現から登場人物の心情を読み取る。</p> <p>⑥「夏」の場面の優れた表現から登場人物の心情を読み取る。</p> <p>⑦「八月六日」の場面の優れた表現から登場人物の心情を読み取る。</p> <p>⑧「おぼんの夜～冬」の場面の優れた表現から登場人物の心情を読み取る。</p> <p>⑨「また、八月の六日が来る」の場面の優れた表現から登場人物の心情を読み取る。</p> <p>⑩前時までの学習をもとに、ノリオの生活の変化や今後について話し合い、自分の考えをまとめる。</p>	(戦争に関する作品)
3	11	⑪短歌と解説文を友達に紹介し、表現の効果や感想を伝え合う。	

## 5 本時の指導（9／11）

(1) 目標 母ちゃんを恋しく思いつつも必死で前を向こうとするノリオの成長を、叙述をもとにして読むことができる。 【読むこと エ】

### (2) 仮説との関連

文学的な文章に関する教材の読みを基調として、課題について書いたり交流したりして考えを深め、授業の振り返りの在り方を工夫していけば、「書くこと」を通して読む力を向上させることができるだろう。

本教材文は、「ノリオ」が片仮名表記であること、「父ちゃん」「母ちゃん」「やぎっ子」「川」などが不特定表記であることから、一人の犠牲者の物語ではなく、不特定多数の犠牲者の物語として描かれている。このことから筆者の「反戦争・反原爆への思い」を強く感じ取ることができる作品である。日に日にやつれていく母ちゃん、戦争へ行くことになり、亡くなって帰ってきた父ちゃん、そして何よりも幼少期に両親を失うというこの上なく辛い経験をしたノリオ。家族の支え・愛情が無くては生きていくことが難しい幼少期において、両親を失ったノリオの絶望感は計り知れない。戦争が激化し、目まぐるしい状況の変化に影響を受けるノリオの家族、辛い経験を通して少しずつ成長するノリオ。それとは対照的に昔から変わることなく流れ続けている「川」。しかし川は時としてノリオの心情と共鳴する。そんな2つの不思議な関係を通して物語が展開されていくのが特徴的である。登場人物のノリオが幼児ということもあり、ノリオの台詞、行動があまり説明されていないこともこの教材文の大きな特徴である。しかし「川」の比喩表現を用いた情景描写がノリオの心情を表している場面が多い。つまり、「川」とノリオは切っても切れない関係なのである。また教材文は主に三人称で書かれているが「ノリオは川のにおいをかいだ。」など、時としてノリオの視点が取り入れられており、心情を読み取る大きな手がかりとなると言える。

そこで、まず、一次の物語のあらすじをとらえる場面では、戦争とはどのようなものかを司書教諭からブックトークをしてもらい、そのうえであらすじをとらえていく。ノリオをとりまく環境がどのようなものなのかを確認しながら進めていきたい。そして、児童から疑問に感じたところ等を発表させ、学習課題とすることで、児童が主体的に学ぶことができる場を設定する。

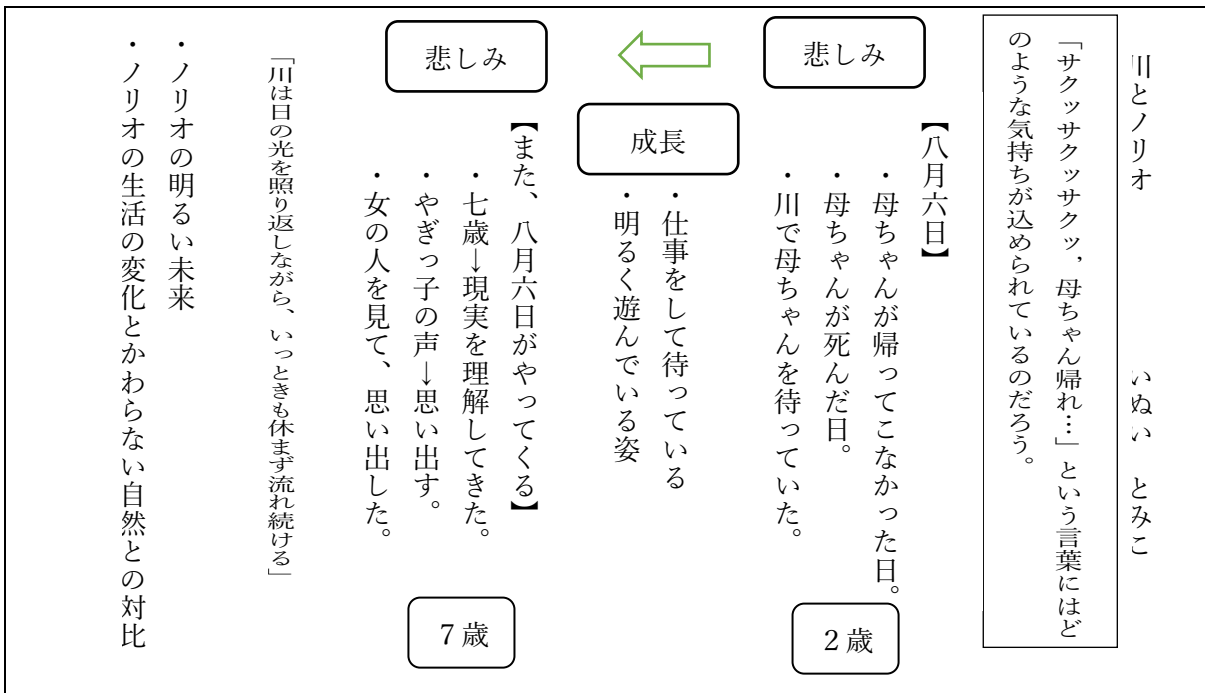
二次では、学習課題に対する自分の考えをノートに書かせ、交流を通して読み深めていく。自らの考えを書かす際に、教科書叙述から根拠を抜き出し書かせることを徹底し、書く力を高めてきたい。また、各場面の学習の振り返りに「短歌と解説文」を書くことで、物語に散りばめられた文学的表現に目を向けさせ、心を動かす優れた叙述、暗示性の高い表現、メッセージや題材を強く意識させたい。そして、各場面で作った短歌と解説文を通して友達と交流することで、多様なものの見方に気付き、自分の考えを広げていけるようにしたい。

(3) 展開

学習活動と内容	過程 時配 形態	○指導 ○評価 ☆仮説との関わり
<p><b>1 本時のめあてを確認する。</b></p>	<p>見出す 調べる (5)</p>	<p>○前時までに自分の考えとその根拠についてノートに明記させておく。</p>
<p>「サクッサクッサクッ、母ちゃん帰れ…」という言葉にはどのような気持ちが込められているのだろう。</p>		
<p><b>2 学習問題について話し合う。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 7歳になり、母ちゃんがないことが理解できたからこそ、悲しみが込み上げてきた。</li> <li>・ 白い日傘をさして、子どもの手を引いた女の人を母ちゃんと重ね合わせ、思わず心の中で言ってしまった。</li> <li>・ 悲しい気持ちを振り払って前へ進んでいこうとしているが、なかなか忘れられない苦しい気持ちになったから。</li> <li>・ やぎっ子の鳴き声が母ちゃんやぎを呼ぶような声に聞こえることから、まだ母ちゃんがないことが悲しい。</li> </ul>	<p>深める (10) グループ</p>	<p>◎叙述をもとにノリオの心情を読み取ることができている。(発言・ノート)</p> <p>○「悲しみ」という共通点が明確になるように、板書を構造化する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>☆ 学習課題に対して教科書叙述を根拠に自分の考えを書かせ、交流し深める。</p> </div>
<p><b>3 前時で展開した場面と本時の場面におけるノリオの思いの違いをノートに書き、グループで交流する。</b></p>	<p>(10) 個別 グループ</p>	<p>○書くことが苦手な児童のために、前時の内容を予め掲示物にまとめておき内容を整理しやすくする。</p> <p>○話し合いを焦点化するために、キーワードとなる「悲しい」に着目をしてどの時点がノリオにとって一番悲しいの</p>

<p>4 グループごとに話し合った内容を発表し、全体で考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2歳の時の方が、悲しみが大きい。</li> <li>・ 現実を受け入れられたため7歳の方が悲しみは大きい。</li> <li>・ 2歳の時は川でただ待っていることしかできなかったが、7歳になってからは悲しみながらも仕事をしている。</li> <li>・ 7歳のノリオは悲しみからなんとか脱出しようとしている。</li> </ul> <p>5 本時のまとめを「短歌」で書く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>① 「短歌」を書かせる          ② Teams に打ち込ませる          ③ 解説文を書く</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>☆ 「短歌」「解説文」を書かせ振り返りを行うことで優れた表現に触れながら、学習内容を整理することができる。</p> </div>	<p>(10) 全体</p> <p>まとめあげる (10) 個別 全体</p>	<p>か「8月6日(2歳)」「また、8月6日(7歳)」「どちらも同じくらい悲しい」に絞り考えさせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>☆ 学習課題に対して教科書叙述を根拠に自分の考えを書かせ、交流し深める。</p> </div> <p>○母ちゃんが迎えに来なくてたたずんでいた頃のノリオの姿と比較させることで、悲しみの思いは変わらずとも、前を向こうとしている姿から、ノリオの成長を読み取らせる。また、ノリオと川の情景描写にも着目させる。</p> <p>○書くことが苦手な児童のために、パワーポイントを共有することで友達の作品を参考にしやすくする。また、友達の「短歌」を自由に見る場を設定することで、友達の考えを共有し、新たな読みを発見する手立てとする。</p> <p>◎本時の学習を通しての感想や気付いたことを「短歌」「解説文」で表現することができる。(ノート)</p>
--	---	---

(4) 板書計画



5 本時の指導（10／11）

(1) 目標 表現の効果をもとに物語の全体像を想像し、それらを根拠として、川とノリオの関係についての自分の考えをもつことができる。 【読むこと エ】

(2) 仮説との関連

文学的な文章に関する教材の読みを基調として、課題について書いたり交流したりして考えを深め、授業の振り返りの在り方を工夫していけば、「書くこと」を通して読む力を向上させることができるだろう。

前時までの学習では、情景描写、主に「川」に関する描写を取り上げながら、「ノリオ」の心情を想像してきた。作品中の「川」は作品全体を貫くものであり、どの場面でも大切に、丁寧に描写されているのがこの作品の特徴である。

本時は、作品から読み取った「ノリオ」の心情と「川」の描写を関連付け、題名でもある「川とノリオ」の関係を考えていく。そこで、ノリオにとっての川がどんな存在であるかを「ぼくにとって川は～」と一人称で書かせ、友達と話し合うことで、「川とノリオ」の主題に対して自分の考えをもつことにつなげていきたい。話し合いでは、効果的な描写を根拠として、川とノリオを対比させながら、戦争という時代や状況下で生きていかなければならないノリオの悲しみやたくましさを読み取ることができるようにする。そして、友達の見解を参考にしながら、改めて自分の考えを見つめ直すことで、より深く作品に向き合っていけるようにしたい。

(3) 展開

学習活動と内容	過程 時配 形態	○指導 ○評価 ☆仮説との関わり
1 本時のめあてを確認する。	見出す (5) 一斉	○前時までの学習を振り返り、本時は「川とノリオ」の関係を考える学習であることを確認する。
学習問題 ノリオにとって川はどんな存在だったのだろう。		
2 「川」の描写や「ノリオ」の出来事を振り返る。 (川) ・「休まず流れ続ける」は始めと最後にある。 ・「ザアザア」は何度も出てきた。 ・呼んだり笑ったりしていた。 (ノリオ) ・幸せな二歳の神様だった。	調べる (5) 一斉	○ノリオの生活、家族、時間の使い方といった視点からノリオに起こった出来事を振り返る。 ○全文を通して、心に残った「川」の描写を出し合う。 ○前時までのノートや掲示物を参考にしながら考えるように促す。 ○変わったものと変わらないものを比較できるように板書を上下に分ける。

<ul style="list-style-type: none"> <li>・母をずっと待っていた。</li> <li>・父は小さな箱で帰ってきた。</li> <li>・じいちゃんの子になって仕事をしている。</li> <li>・母への思いは変わらない。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ノリオの生活が変わったのは、戦争という、どうすることもできなかったことに原因があることを確認する。</li> <li>○ノリオにとって、変わらないものはなかったのかについても考えさせる。</li> </ul>
<p>3 ノリオにとって川がどんな存在であるか考え、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「川」はいつも側で励ましてくれる存在だった。</li> <li>・友達のように気持ちをわかってくれる。</li> <li>・母との思い出がよみがえる。</li> </ul>	<p>深める (5) 個別 (5) グループ (10) 一斉</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆ノリオにとっての川の存在を書く際「ぼくにとって川は～」という書き出しを示す。また、自分の考えの根拠となった描写にも着目させる。</li> <li>○考えることが難しい児童には、前時までに印象に残った「川」の描写を想起させたり、板書にある「川」の描写から想像したりするように助言する。</li> </ul>
<p>4 ノリオの未来や川の在り方を踏まえて主題をとらえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ノリオは戦争で生活が変わってしまったけれど、精一杯生きようとしている。</li> <li>・「休まず流れ続ける」ように自分も立ち止まらずに生きていかなければいけない。</li> <li>・悲しいことはなくならなければならないけれど「日の光」から未来はあるように思う。</li> </ul>	<p>まとめ あげる (10) 一斉</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○話し合いでは、根拠となった「川」の描写を発言させ、川はノリオにとってかけがえのないものであることに気付かせる。</li> <li>○最後の文「川は日の光を照り返しながら、いつときも休まず流れ続ける。」という「川」についての表現に焦点をあて、ノリオの未来を想像させる。</li> <li>○初発の感想では「悲しいお話」と考える児童が多かったことにふれ、考えの変容について問いかける。</li> </ul>
<p>5 本時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・最初は悲しいお話だと思ったけど、最後はノリオの未来にも希望はあるのだと思った。</li> <li>・ノリオにとって川は母を思い出させてくれるものだと考えたが、友達のことを聞いていろいろな見方があると思った。</li> </ul>	<p>(5) 個別</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆「川とノリオ」についての考えが、初発の感想と比べてどのように変わったのか、または変わらなかったのか、その理由も含めて振り返りで書くように伝え、自分自身の考えを見つめ直し、考えの変化や深まりを実感できるようにする。</li> <li>◎表現の効果をもとに物語の全体像を想像し、それらを根拠として、川とノリオの関係についての自分の考えをもつことができる。(ノート・発言)</li> </ul>



(4) 板書計画

